

Reader's VIEW

2020 Vol. 1へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部に寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) でご覧いただけます。

◎特集の課題提起で、教育研究家の妹尾昌俊氏が問いかけた「子どもたちに学び続ける力が育っていたか？」は、今まで我々が行ってきた実践への答えであり、これからの実践を考える上での鍵になると考えます。(千葉県)

◎特集の課題提起で、妹尾氏の『『コロナの時は本当に大変だった』と述懐して終わるのか、それとも、『あの時の経験が今の教育活動に生きている』と言えるようになるのか』という締めくくりの言葉が心に残りました。今後の教育活動を考える際のベースにしようと思いました。(北海道)

◎特集の校長インタビューで、大分県豊後高田市立真玉小学校の瀬口卓士校長が語った「平時の取り組みが、子どもの自主的な学びにつながる」は、まさにその通りだと思いました。学びの質を高めて、常に意欲を持たせたり、学ぶ意義を感じさせたりしなければ、子どもは自ら学ぶようにはなりません。本市では、臨時休業期間中、多くの子どもが学びよりもゲームやSNSなどに時間を浪費する姿が見られました。子どもが自学自習にしっかり取り組めるよう、日々の支援に力を入れていきたいと思いました。(北海道)

◎特集の校長インタビューで、神奈川県・私立横浜創英中学校・高校の工藤勇一校長が語った「最上位目標」の考え方に大いに共感しました。初任者やミドルリーダーなどを対象とした、カリキュラム・マネジメントの講義を担当する際に伝えていた考え方と一致していました。(静岡県)

◎これまで大切にされてきた五感を使った教育を、オンラインによる学習環境でどのように実現できるのかを模索中です。目や耳から情報を取り込めない子どもに配慮した指導法を考えなければならぬと思います。(京都府)

◎コロナ禍は、教育の最上位目標を改めて設定し、将来にわたって組織や学制をどのようにつくっていくかを考え、

変革していく大きなチャンスかもしれません。学校の責任者であり、経営者である校長が覚悟を決めて、教職員、子ども、保護者、地域住民とともに真摯に取り組めるかが問われていると思います。その際には、特集に登場した各校の校長の考えが大いに役立つと感じました。中学校の校長を退職して2年が経ちましたが、もう一度、校長として学校づくりに取り組みたいと心底から思いました。(千葉県)

◎コロナ禍での教育委員会や校長は、判断と決断の連続です。緊急事態宣言が再び発令されないことを祈るばかりです。しかし万一、再び臨時休業となった場合には、今春の臨時休業時の混乱を繰り返してはなりません。そのための準備が今、必要です。(神奈川県)

◎連載「教育長が語る Leader's VIEW」で、東京都福生市の川越孝洋教育長が語った「平均値で捉えずに一人ひとりの実態に注目する」という考えに賛同します。集団を1つのまとまりではなく、個々の集まりだと捉えて指導することが大切だと思います。(青森県)

◎連載「令和時代の教育を語ろう Special」で、東京都世田谷区立桜丘中学校前校長の西郷孝彦先生が、教員に伝えていた「生徒の前でもっと失敗しましょう」には、まさにその通りだと共感しました。この不安な状況で、どうすればよいか日々悩んでいる子どもに、教員がときには失敗する姿を見せたり、自身の失敗談を語ったりすれば、子どもは「先生でも失敗するんだ」と分かり、気持ちが楽になるのではないのでしょうか。(東京都)

◎連載「令和時代の教育を語ろう Special」を読んで、コロナ禍における学校の管理職としての心構えを再認識できました。特に、日本教育カウンセラー協会の藤川章理事が語っていた学校のマネジメントにおいて、「自分の軸を持つこと」の大切さは、心に強く響きました。(島根県)

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大で、編集部の仕事の進め方は大きく変わりました。本号の取材は、訪問取材とオンライン会議ツールを利用した取材が半々となりました。オンライン取材は、対面取材に及ばない点がありますが、取材先の場所を問わずに話が聴けるといったメリットもあります。国内はもちろん、「フロントランナーに聞く教育のnext」「令和時代の教育を語ろう」では、海外在住者への取材も実現しました。新たな視点で世界を捉え直し、時代の変化を実感する、今日この頃です。(広瀬)

VIEW21 教育委員会版 2020 Vol.2 2020年11月17日発行/通巻22号

発行人 山河健二
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 研精堂印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川 潤、田中秀和、谷口 哲、
 筒井岳彦、ヤマグチイキ

◎お問い合わせ先
 フリーダイヤル 0120-350455
 〒700-8686
 岡山市北区南方3-7-17